HOYA株式会社

FY26 Q2 決算説明資料

2026年10月30日

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

FY26 Q2業績

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

FY26 Q2 連結業績

- 【売上収益】情報・通信事業がけん引し、連結売上は二桁の増収となった。
- 【通常の営業活動からの利益】 情報・通信の売上増、ライフケアの利益率改善により大幅増益。
- 売上・利益ともに、四半期ベースで過去最高を更新。

売上収益	通常の営業活動からの利益	税前利益
2,602億円	**894**億円	**916**億円
+11%	+27%	+27%
(CC +6%)	(CC +23%)	(CC +23%)

【ご参考】ROIC [税引後営業利益/投下資本 (有利子負債+純資産のうち親会社の所有者に帰属する持分)]・・・26.0%

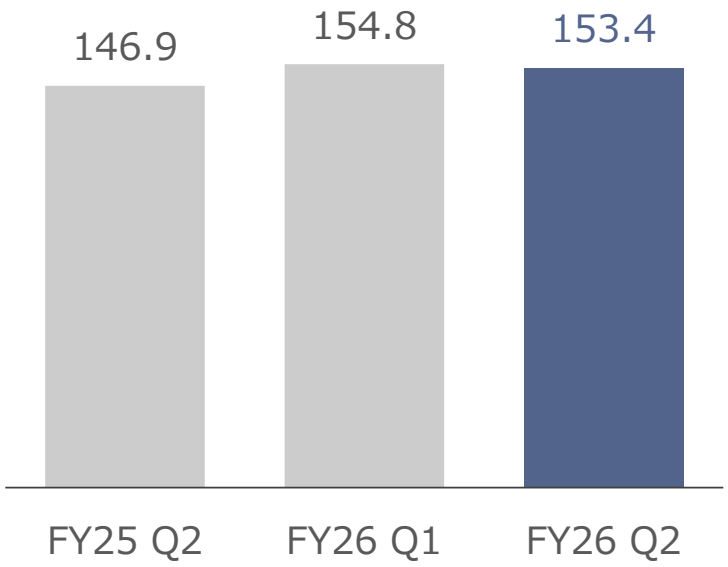
USD	159.36円	-7.4% (円安)
EUR	182.99円	-6.2% (円安)

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

ライフケア事業概況

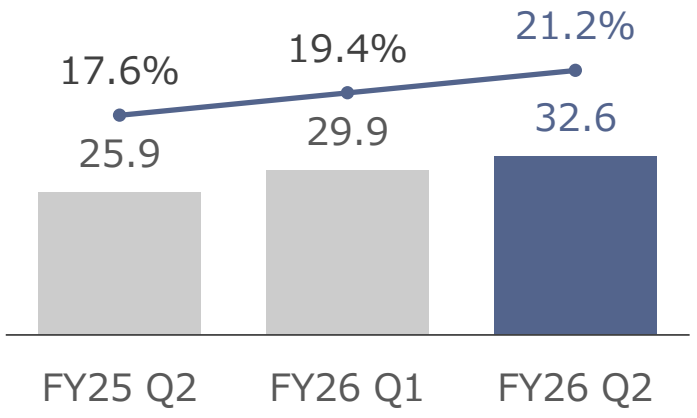
- 【売上収益】眼科領域が安定的に推移、為替換算影響込みで増収を確保した。
- 【通常の営業活動からの利益】製品ミックスや費用の合理化などにより利益率が上昇。目安とするレンジに回帰した。

売上収益（十億円）



+4% (CC -1%)

通常の営業活動からの利益/利益率



+26% (CC +21%)

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

ライフケア事業 製品別概況：メガネレンズ

売上成長率
+8%
(CC +1%)

- 米国事業の構造改革が続くなか、米国の減収が影響し、売上は前年並み。
  MiYOSMARTなど高付加価値製品は引き続き成長。
- 第2世代MiYOSMARTの中国での拡販に加え、他地域への展開も進展。
- 米国事業の立て直しに向け、販売体制の強化や生産・サービス体制の改善を推進。

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

ライフケア事業 製品別概況：コンタクトレンズ（eyecity）

売上成長率
+1%
(CC +1%)

- PB商品やサブスクリプションの拡大により顧客定着率が改善し、販売活動が安定的に推移。
- 前年同期の売上水準が比較的高かったこともあり、売上は前年並みに。
- 引き続き、顧客利便性の向上を通じて、顧客基盤の強化と安定成長を目指す。

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

ライフケア事業 製品別概況：内視鏡

売上成長率
-10%
(CC -16%)

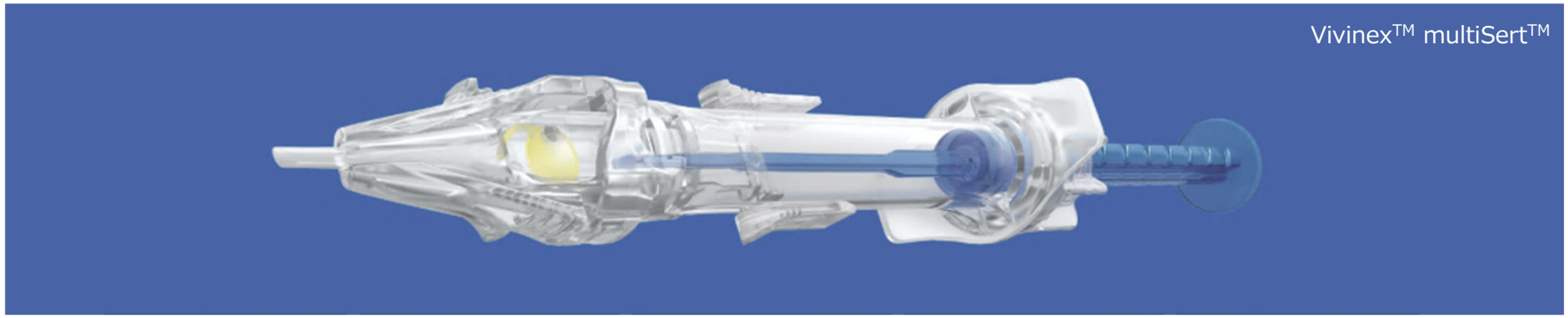
- 中国では国産製品の普及拡大政策の影響により輸入内視鏡市場の縮小が継続。
- 米国では、厳しい競争環境などを背景に販売が低調に推移。
- 販売・サービス体制の立て直しと業務効率の改善を進め、業績の改善を図る。

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

ライフケア事業 製品別概況：眼内レンズ

売上成長率
+5%
(CC +1%)

- 中国で減収が続いたほか、ドイツの保険償還制度変更がマイナスの影響。他方、日本ならびにアジア各国での販売が安定推移し、全体で増収を確保した。
- 三焦点レンズに加え、高機能単焦点レンズの販売が引き続き拡大。
- 欧州での販売挽回を図りつつ、グローバルでATIOLの拡販を進める。



© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

ライフケア事業 製品別概況：人工骨ほか

売上成長率
+2%
(CC -3%)

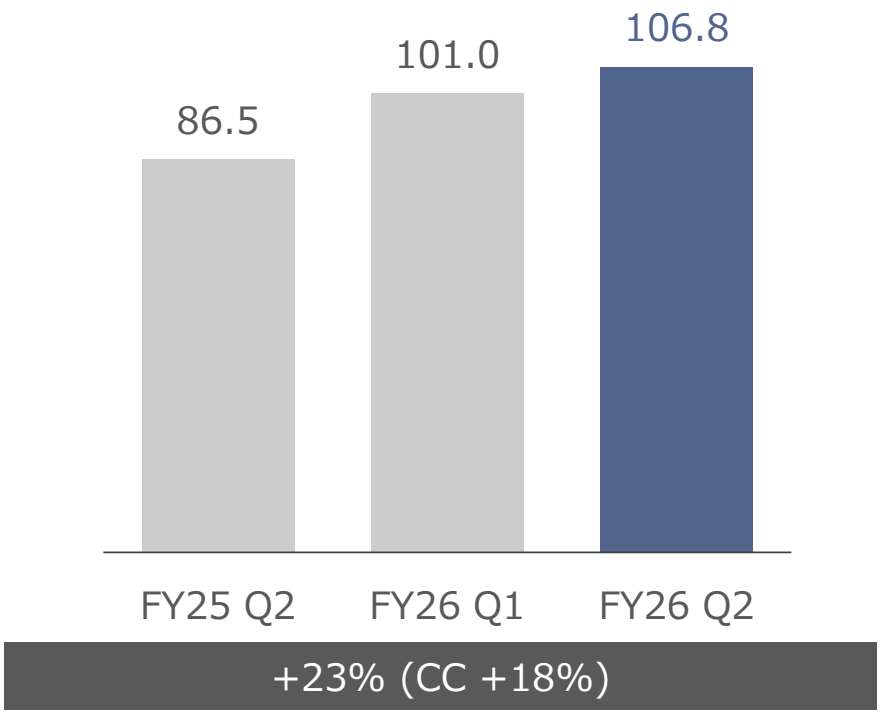
- 内視鏡洗浄機、金属インプラントが堅調に推移した一方、在庫調整が続くクロマトグラフィー担体や、腹腔鏡手術器具が減収。
- 金属インプラントでは主力製品を中心に新規顧客の獲得が進み、売上成長に貢献。
- 新製品の投入や販売地域・顧客基盤の拡大を通じて、医療機器事業の成長を図る。

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

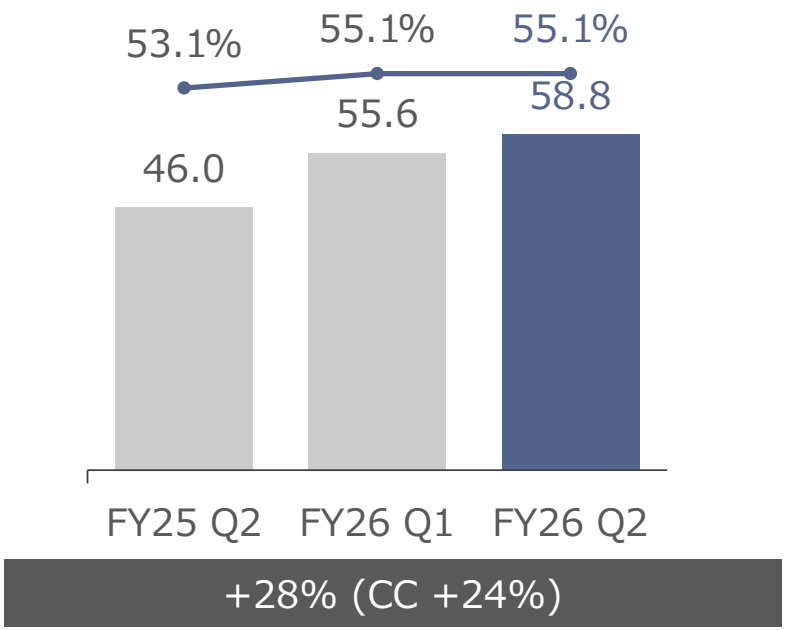
情報・通信事業概況

- 【売上収益】全ての製品が強い伸びを示し、Q1に続き20%超の増収を達成した。
- 【通常の営業活動からの利益】高付加価値製品の販売拡大などにより利益率が高止まった。

売上収益 (十億円)



通常の営業活動からの利益/利益率



© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

情報･通信事業 製品別概況：LSI

売上成長率
+20%
(CC +18%)

- AI関連需要を背景に、先端半導体向けEUVブランクス需要は引き続き堅調に推移。
- 低欠陥品や位相シフトマスク（PSM）など、高付加価値EUVブランクスの販売拡大が継続。
- High NA向け12インチラージマスク向けブランクスの実現に向け、顧客とのコミュケーションや社内検証を推進。

HOYA ELECTRONICS SINGAPORE PTE. LTD.

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

情報・通信事業 製品別概況：FPD

売上成長率
+21%
(CC +13%)

- FPDフォトマスク市場全体が一時的に弱含むなか、韓国の主要顧客向け販売拡大により大幅増収。
- スマートフォンやIT OLEDを中心とした先端ディスプレイ向けの開発需要を着実に取り込み。
- IT OLEDや高付加価値スマートフォン向けの中長期的な需要拡大を見据え、高精細・高付加価値マスクの開発・拡販を推進。

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

情報･通信事業 製品別概況：HDD基板

売上成長率
+32%
(CC +23%)

- 活発なデータセンター投資を背景にニアラインHDD需要がさらに拡大し、3.5インチ基板の販売数量が大幅に増加。
- HAMRの採用拡大に加え、非HAMR製品でも多枚数化に伴うガラス基板採用の動きが進展。
- HDDメーカー各社からの当社に対する需要予測が引き上がっており、既存工場の増産を進めるとともに、今後の能力増強の前倒しを検討。

HOYA LAOS Co., Ltd.

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

情報・通信事業 製品別概況：光学ソリューション

売上成長率
+14%
(CC +7%)

- デジタルカメラ市場が弱含むなか、高付加価値製品への集中により交換レンズ向け製品はプラス成長を確保。
- AIデータセンター投資の拡大を背景に、光トランシーバー向け偏光ガラス（CUPO）の販売が力強く伸長し、全体の成長をけん引。
- CUPOのさらなる需要拡大に対応した生産能力増強を進めるとともに、ウェアラブルやARなど成長用途の拡販を推進。

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

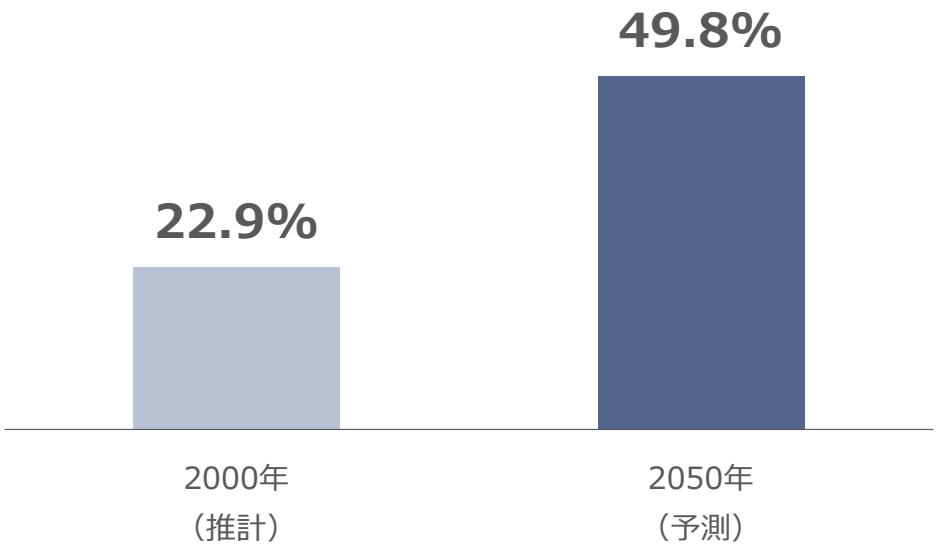
MiYOSMARTのアップデート

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

世界を取り巻く近視の状況

2050年には世界人口の約半数が近視になると予測。子ども・青少年の近視有病率も、2020～2023年の推計で35.8%に達している。

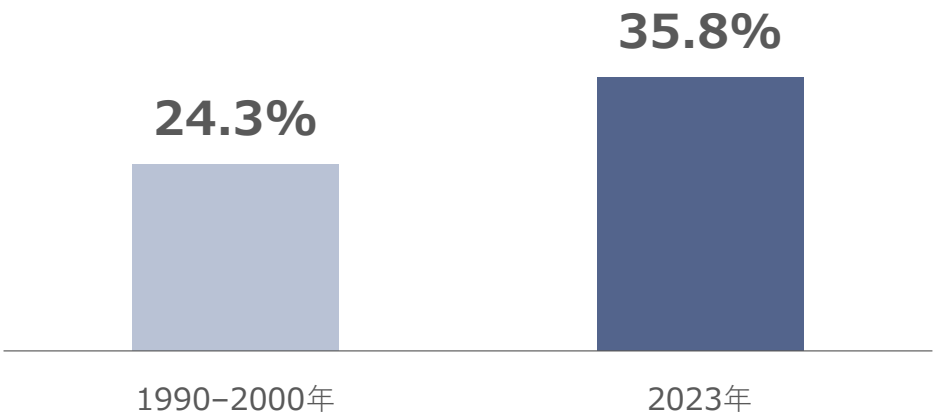
世界の近視有病率（全年齢）



2016年公表の推計・将来予測。

出典：Holden BA, et al. Ophthalmology. 2016;123:1036–1042. doi:10.1016/j.ophtha.2016.01.006

世界の子ども・青少年の近視有病率



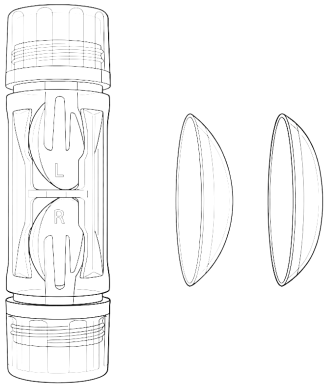
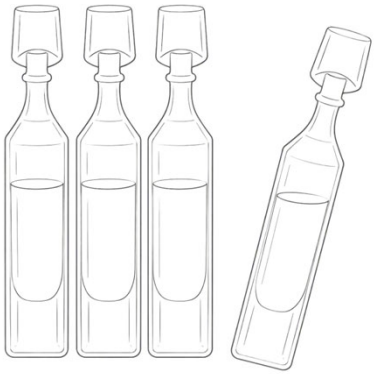
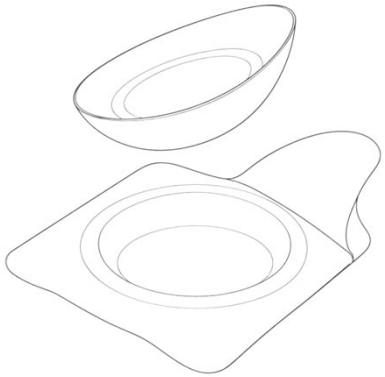
50か国・276研究、約541万人を統合した期間別推計。

出典：Liang J, et al. Br J Ophthalmol. 2025;109:362–371. doi:10.1136/bjo-2024-325427（2024年オンライン公開）

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

主な近視進行抑制ソリューション

- 大きく分けて近視進行抑制ソリューションは4つのタイプが存在。
- HOYAは2018年に近視メガネ進行抑制メガネレンズMiYOSMARTを発売。

オルソケラトロジー レンズ	低濃度アトロピン 点眼薬	近視進行抑制 メガネレンズ	近視進行抑制 ソフトコンタクトレンズ
			

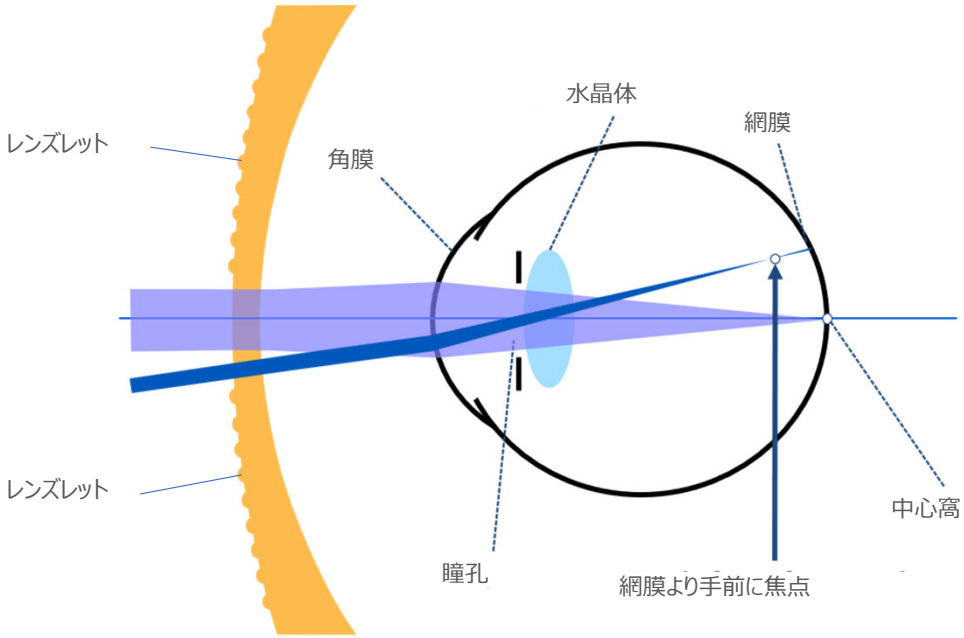
※各製品の承認状況は国により異なります。

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

MiYOSMARTの仕組みと効果

- レンズ中央のクリアゾーンを囲むように多数のレンズレットを配置し、周辺部に近視性デフォーカスを形成することで、眼軸長の伸長を抑える
- 香港における臨床試験で眼軸長の伸びを62%抑制する効果が確認されている。

MiYOSMARTの仕組み



香港での臨床試験結果

近視進行を52%抑制

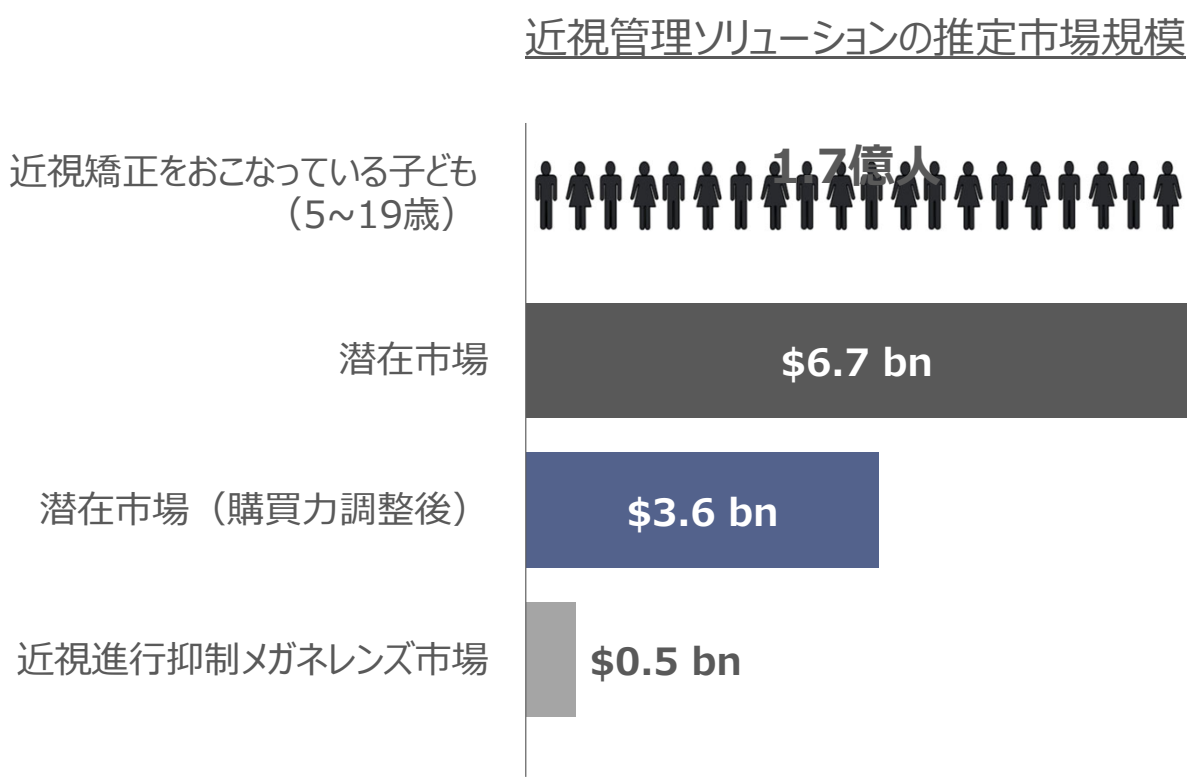
眼軸長の伸びを62%抑制

対象：香港の8~13歳の近視児童 183人
期間：2年間
方法：通常の単焦点メガネレンズをかけた被験グループとの無作為比較
出典：Lam CSY, et al. Br J Ophthalmol. 2020;104:363–368.

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

近視管理市場の推定規模

- 近視管理ソリューション全体の潜在市場規模は36億USD。これに対し、近視管理メガネレンズの卸売市場は5億USDにとどまり、拡大余地は大きい。
- 近視管理メガネレンズ市場は10%台前半～半ばの伸びが継続し、2030年には10億USDに達する見込み



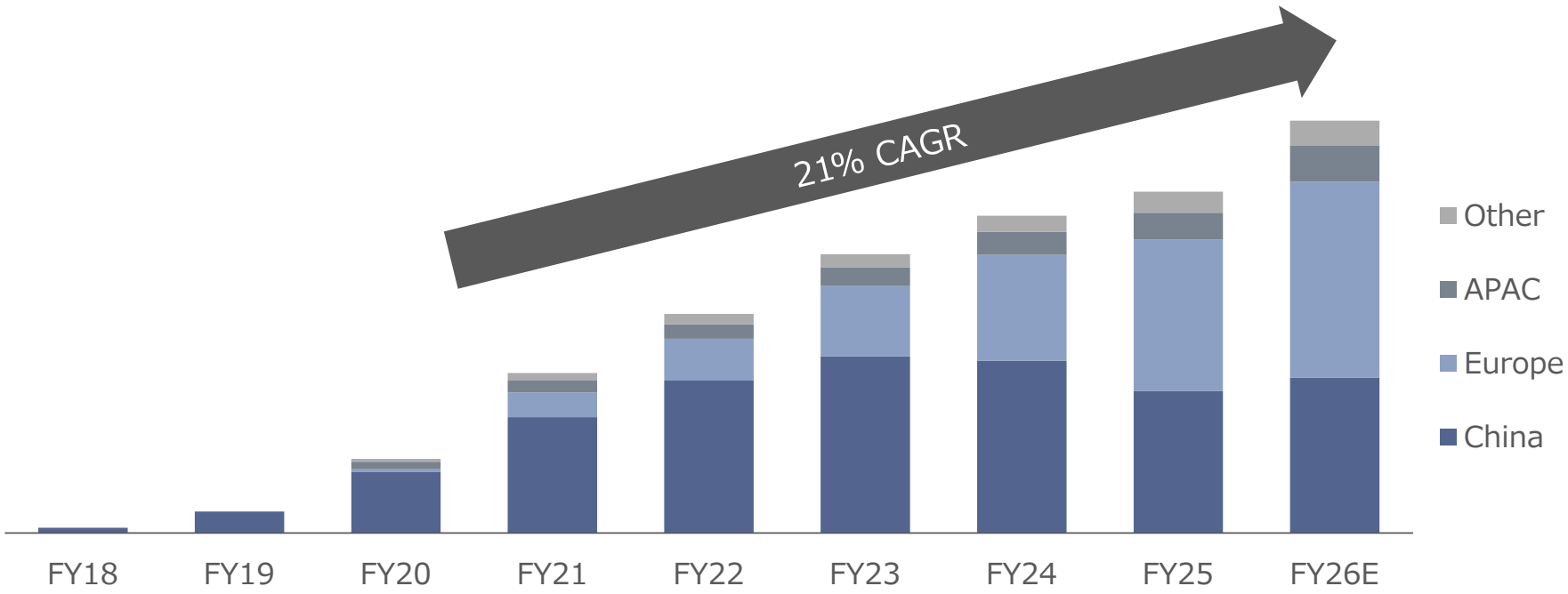
出典： 当社推計。各種市場調査、地域情報およびLIS所得データ等に基づく。2026年推計

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

MiYOSMART売上の推移

- FY21より21% CAGRと高い成長を遂げており、メガネレンズ売上の1割弱を占める規模感となっている。
- 中国は引き続き主要市場である一方、直近では欧州が新たな成長ドライバーとして存在感を高めている。

地域別売上推移

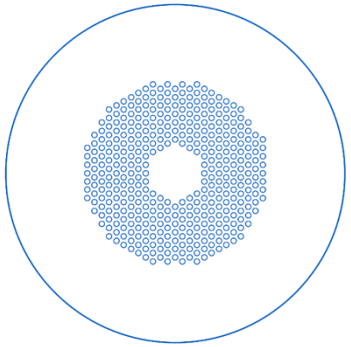


© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

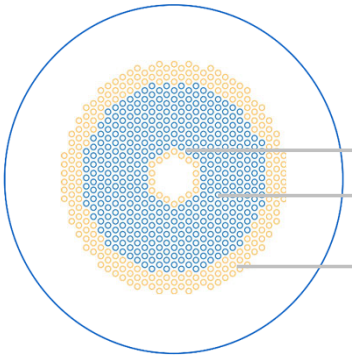
MiYOSMART第2世代の発売

- 2025年冬、中国市場を皮切りに第2世代製品MiYOSMART iQを発売開始。
- 第1世代との比較で近視性デフォーカス信号の強化を意図し、配置、度数および範囲を変更した。

第1世代
MiYOSMART



第2世代
MiYOSMART iQ



01 近視性デフォーカスに最も反応しやすい領域を狙うため、デフォーカスエリアを従来品よりレンズ中心寄りに配置。

02 網膜の中心に近い領域に届くデフォーカス効果を高めるべく、度数を+3.5Dから+4.5Dに変更。

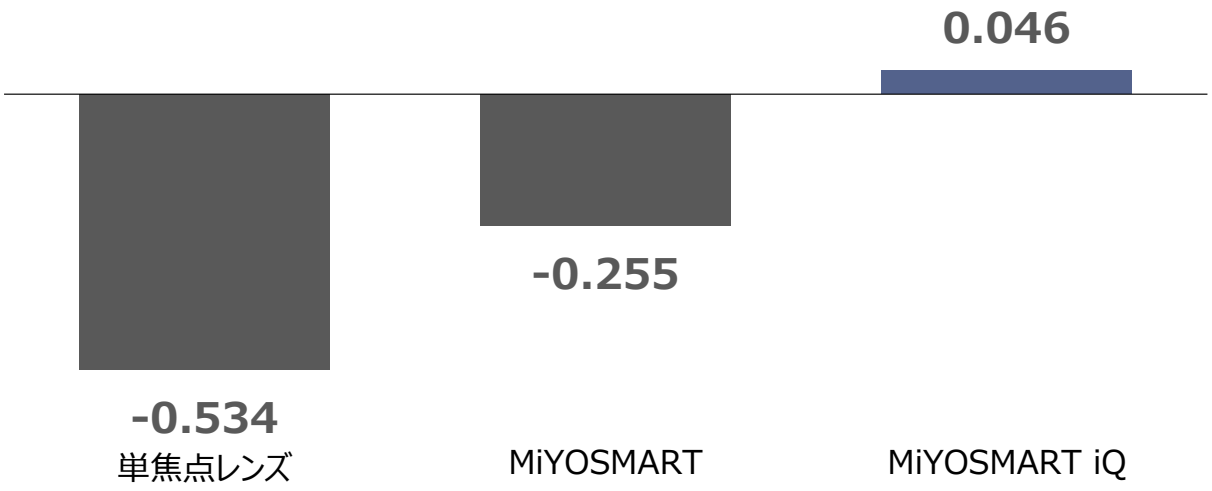
03 大きなフレームでも十分なデフォーカス効果が得られるよう、デフォーカスエリアを増やして広範囲に配置。

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

MiYOSMART iQ：12ヶ月臨床試験結果

1年間の臨床試験では、MiYOSMART iQを使用した子どもでは、平均で近視の進行が見られなかった。

12か月間の平均近視進行度（cSER、D） [1-4]



- マイナス方向ほど近視が進行
- 4～12歳の近視児童202人を対象とした12か月のランダム化比較
- いずれも香港での臨床試験結果
- cSER：調節麻痺下の等価球面屈折度数
- 開始時の年齢・近視度数を調整した共分散分析で、群間に有意差（p<0.001）

*Results may vary per age group and other parameters at the start of the MiYOSMART iQ treatment

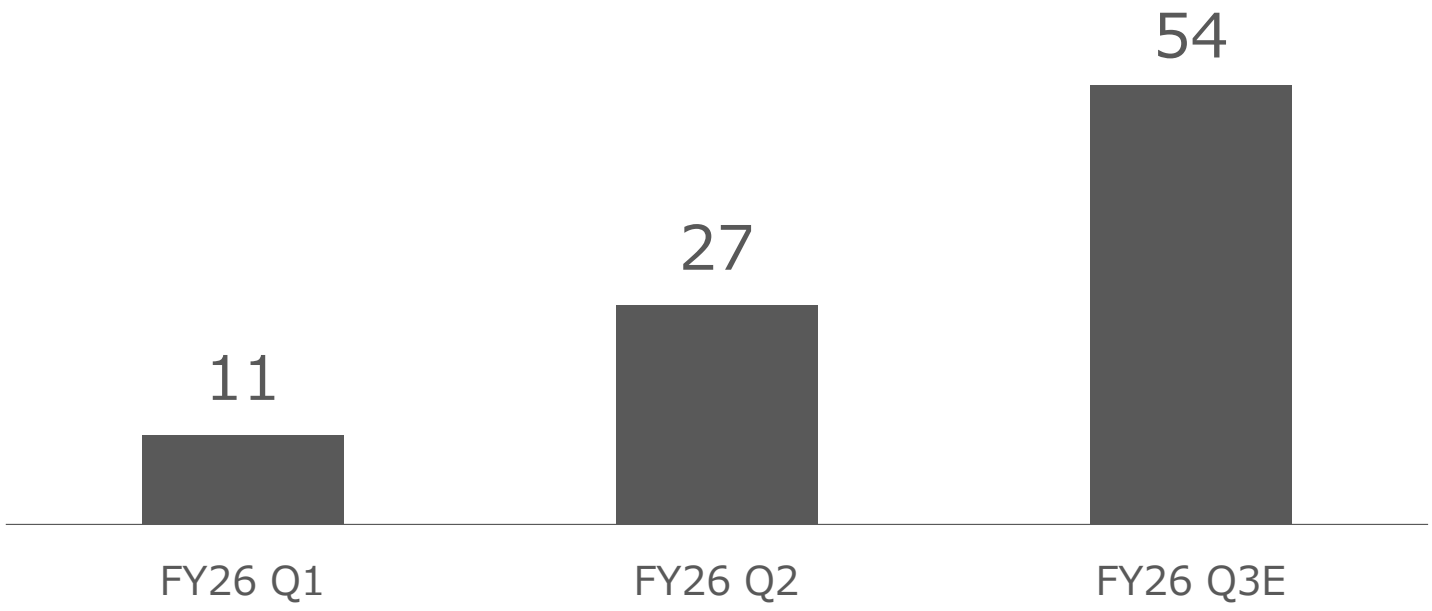
1. Tse DYY, Chun RKM, Hon Y, et al. Myopia Control Efficacy of Defocus Incorporated Multiple Segments Triple Enhanced Design Spectacle Lenses. The 41st Asia-Pacific Academy of Ophthalmology Congress, 2026, https://2026.apaophth.org/abstract/?code=205567. (accessed date 22.05.2026)
2. Hon Y, Chun RKM, Leung TW, et al. (2025) Myopia control efficacy of second-generation defocus incorporated multiple segments spectacle lenses on fast progressing myopes: Study protocol of a randomised controlled trial. PLoS One 20(10): e0335061. https://doi.org/10.1371/journal.pone.0335061
3. HOYA data on file. HOYA MiYOSMART iQ spectacle lens clinical outcomes. 04/2026.
4. Tse D.Y., Hon Y., Chun R. K., et. al. Myopia Control Efficacy of Defocus Incorporated Multiple Segments Spectacle lens with Triple Enhanced Design: 12-month randomized controlled trial. Abstract 2523, ARVO 2026 Annual Meeting, Denver, USA. https://eppro02.ativ.me/web/index.php?page=IntHtml&project= ARVO26&id=4486941 (accessed date 22.05..2026).

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

MiYOSMART iQのグローバル展開スケジュール

- 販売国数を四半期ごとに拡大、FY26 Q3末までに54か国へ展開する計画（第1世代MiYOSMARTと同水準の販売国数）。
- 既に販売している市場についても、臨床試験結果を活用し、取り扱い店舗の拡大、市場成長（10%台前半～半ば）を超える成長を目指す。

MiYOSMART iQの累計販売国数



© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

将来予測に関する記述

当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2026年4月～2027年3月の会計期間を2027年3月期もしくはFY26と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
  %は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ 「通常の営業活動からの利益」は、税引前四半期利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。
  https://www.hoya.com/investor/kessan/

© 2026 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

Innovating For a Better Tomorrow

HOYA